

伊那谷スケッチ

～自然と文化を巡るふるさと再発見～ 第三十八回

前島久美



布引き沢上部の雪溪

山に分け入ればキノコマーケット。夏のキノコから晩秋のキノコまで出そろっていて「これは一体、どういうことか」と唸ってしまう。今年は通常認識している「しろ」（キノコが生える場所）からずいぶん面積を広げて出ているものや、かなり標高の高い所にまで出ているキノコもある。そしてキノコシーズンの到来が何と言っても早かった。というのが「キノコ豊作」と言われている今季の特徴。9月は山で採ってきた様々なキノコを毎日取っ替え引っ替え頂いた。これで今年の身体のデトックスも完了。

クリタケ、シモシメジやホンシメジも収穫できるようになったので、いよいよ山はフィナーレを迎えつつある。

今号は、前回に引き続き6月13日から15日の2泊3日で溯行した「布引きの滝」の冒険の続きをお届け。

地元探訪 布引きの滝 その2 布引きの滝の正体

シュラフカバーだけでは寒かったではないか。溯行前夜、H大山岳部OBのMさんが「シュラフを持っていくと重くなるからカバーだけで良いんじゃない」というので軽量化も踏まえシュラフカバーだけ持参することにした。寝床の準備をしていると「シュラフカバーだけ？Mさんはきびしいこと言うなあ」と、Nさんの分厚いダウンジャケットを貸してくださった。私のぺらぺらのダウンはNさんが着た。

ツェルトを張るスペースはなく、タープだけで寝るのははじめてだった。

私は寒くてもそれなりに眠れたけれどNさん

は斜めでは眠れなかったらしく、朝起きたらたき火の周りをなんとか平らにして、そこに丸くなっていた。早々に朝食を食べて、出発。

布引き滝の右の草付きを登っていく。

「フォー フォー フォー」とレイザーラモン（日本のお笑い芸人）ばりに深い谷の中で叫び合う。安全確保準備okの合図。Nさんに教わった合図の出し方だ。普段大声を出す事もないのでこんな声帯の使い方もあったのだなど、イレギュラーな楽しさを感じた。

崩れやすい草付きの悪い斜面で支点をいくつ

もとって登る。それでも比較的スムーズに滝の上部にでると10mの滝があった。おそらく鳥倉林道から見える滝は60m+10m。合わせて落差70mの滝が見えていることになる。布引きの滝は2段の滝だということが分かった。

それ以降もまだまだ滝は続いていく、7m、7m、6mと連続する滝、そしてゴルジュ状の滝は右をまく。その都度レイザーラモン（準備OKの合図の甲高い声）は欠かせない。

上流に進めば進むほど浮き石ばかりで安定しない川底になる。「注意して自分で安全かどうか判断してね」とNさんに言われながら足に石を落とさないように進む。一人称で責任をもつ事が重要なのだと山に来るといつも思う。リニア工事現場の人たちにもし判断させたら、早々に撤退するのではなかろうか。「こんな所に穴はほれないよ」とNさん。歩きながら深く納得してしまう。そんな谷だ。

小河内沢の本流はリニアとほぼ並走して走る。リニア工事の影響で、小河内沢は渇水期で水量が86%減少する予測だ。支流の布引き沢が影響を受けないという保証はどこにもないと思うのだが、今のところ布引沢の影響は評価されていない。

雪渓が現れ始めると谷間の旅も終わりの予感。上部でもいくつかの支流が流れ込んでいるが先頭に行くNさんは迷わず本流を選んで登っているようだ。

Nさんに「どうしたら本流だと分かるのですか」と聞くと、「川底が低い方が本流だよ」という。

しばらく雪渓を潜ったり、登ったりしながら最後の岩場を登りきると布引き沢の源流にたどり着いた。ここが布引きの滝の流れの始まりかと思うと感慨深い。ありがたいお水をゴブゴブいただき、夜用の水を2リットルずつ汲んで稜線へ向けて藪漕ぎスタート。

コメツガやシラビソがダケカンバ、ナナカマドになると稜線が近づいているなど思う。けれど到達点が見えないので長く感じる。後半はお

決まりの灌木のため、四つん這いスタイルでなければ進めない状態になり、

散々になって稜線2600m付近に到達。そう、4足歩行から2足歩行になっていく原始体験ができるのが沢登りから稜線への旅の醍醐味なのだ！

そこから、快適な尾根歩き。タカネザクラが咲いていてお花見気分。キバナノコマノツメの群落にのほほんとしながら、人懐っこいホシガラスと挨拶を交わす。体が回復してくる頃に小河内岳の山頂にたどり着いた。取材で三伏経由で登ってきたKさんがカメラを構えていて早速、Nさんに取材していた。

小河内岳の非難小屋で一番暖かい玄関で体を休めた。昨日のことを思うと暖かく、しっかり眠れた感があった。一方、Nさんはデリケートでその日もあまり眠れなかったらしい。

6月15日天気は曇り。ガスって見通しが利かない稜線歩きは植物が一層鮮やかに目に入るの嫌いではない。

Nさんはもう一日「楽園」を楽しむとあって静岡県側の谷へ降りていった。

私は家の仕事の都合もあり、鳥倉林道へ下山。この時期の稜線の花々はなかなか見ないのでゆっくりと植物をみながら歩く。アマナの一種は小河内岳から前小河内までのある限られた範囲で咲いていたのが印象的だった。

三伏小屋に到着すると雨が降り出した。三伏小屋の主人が大切にしている小屋前の花畑ではサンカヨウが咲いていた。大きく広がった柔らかい葉っぱの上に白い花が咲いている。はじめて出会う植物に嬉しくなった。

鳥倉の登山口に降りるとシロバナノヘビイチゴが「ビタミン補給をしておいき」と言わんばかりに実を赤くしてくれていた。ひと時、口いっぱいにほおぼってからコンクリート道を駐車場に向かって歩き始めた。